

今月の表紙

神楽奉納

(撮影:古谷 紗菜様)

第7回「がんばろう熊本 未来に伝えたい農業・農村の風景」
フォトコンテストで、たのしい未来賞を受賞された方の作品です。

- 日米貿易協定が最終合意
- 豚コレラ10月下旬にも予防ワクチン接種
- 特集 主要農作物種子法の廃止と
熊本県の取り組みについて
- 参議院議員藤木しんや氏コラム
- 参議院議員山田としお氏コラム
- JA熊本うき青壮年部活動報告
- 中央会・連合会からのお知らせ



農政連情報

みどりの風

2019 (令和元)年 NOVEMBER vol.358

あぜみち

日米貿易協定は9月25日（日本時間26日）に首脳会談にて最終合意を確認した。本年4月から交渉を加速した後、5か月間でのスピード決着である。

農業分野における合意内容は、TPP11を上回るものではないようであるが、輸入自由化がさらに進展したことや、貿易赤字、為替問題等の米国の圧力に屈した印象は否めない。また、「食料・農業・農村基本計画」で定める食料自給率目標の45%達成どころか、計画の期間内で一度も上昇せず、さらに過去最低の37%に減少する中で、輸入拡大につながる貿易交渉や合意に矛盾を感じるのは、至極当然のことだと思う。

政府は、その影響緩和対策をTPP等関連政策大綱の改定で行うとしており、その基本方針には「農林水産業の生産基盤を強化する（中略）万全の施策を講ずる」と記載されている。

政府が真に我が国農業や農村が発展できる対策を考えるのであるなり、政策大綱に基づく予算は補正予算ではなく、当初予算に組み入れるなどの恒久化と、農水省予算全体の増額を図るべきである。

9月23日に行われた「国連温暖化対策サミット」で、スウェーデンのグレタ・トゥーニベリさんが語った「未来の世代の目はあなた方に向けられています」という言葉が胸に突き刺さる。

政治が農業・農村の未来を奪つたと言わなければならないために、若者や次世代への責任として、環境保全の観点を含めたその持続可能な対策を講じてほしい。

発行/熊本県農業者政治連盟

熊本市中央区南千反畠町2-3 電話 096-328-1284

編集責任者 中村 喜宏

発行日/令和元年10月15日 毎月1回 15日発行
定価 1冊 1部 50円 (但し、会員の購読料は会員の中に含まれます)

日米貿易協定が最終合意

安倍晋三首相とトランプ米大統領は9月25日（日本時間26日）、ニューヨークで会談し、日米貿易協定の最終合意を盛り込んだ共同声明に署名しました。

米通商代表部（USTR）によると、日本は約72億ドル（約7800億円）分の米国産農畜産物の関税を撤廃・削減し、市場を開放すると発表しました。米国産の牛・豚肉・小麦・乳製品の一部、ワインについて環太平洋連携協定（TPP11）と同水準の関税引き下げや撤廃します。

牛肉の関税（現行38・5%）は発効時から一気にTPPと同じ26・6%に引き下げ、15年目に9%まで削減されます。

一方、輸入量が一定量を超えた場合に關税を引き上げ、輸入急増を食い止めるセーフガード（緊急輸入制限措置＝SG）を米国産牛肉に独自に設定します。発効1、2年目の発動基準数量は24万2000t、18年度の米国産牛肉の輸入量25万5000tを下回る水準に抑えます。同数量は15年目には29万3000tに拡大します。今後の牛肉の需給動向によっては、米国とTPP参加国からの輸入量の総量が、

TPPの発動基準数量を超えてしまう可能性は否定できません。このため、政府はTPP参加国に、修正協議を求める方針です。

農産品	自動車・同部品	園芸関連	小麦	乳製品	牛・豚肉	米
・米国が日本産牛肉向けの低関税輸入枠を実質的に拡大、国を特定しない輸入枠6万5000tを使用可能に ・ナガイモ、切り花など輸出関心が高い42品目で関税を削減、撤廃	・リンゴ、オレンジ、トマトピューレ・ペースト、トマトジュースはTPPと同様に段階的に関税撤廃 ・オレンジのSG発動基準数量はTPPの95%水準で19年度3万5150t ・トマトケチャップ、ブドウ、オレンジ、リンゴ果汁（一部除外）は除外	・豚肉粉乳・バターなど「TPPワイヤード枠」に輸入枠設けず ・脱脂粉乳は既存WTO枠内にたんぱく質含有量35%以上の輸入枠5000t（生乳換算）を設定	・TPPと同様にマークアップ削減 ・最大15万tの輸入枠を設定	・脱脂粉乳・バターなど「TPPワイヤード枠」に輸入枠設けず ・脱脂粉乳は既存WTO枠内にたんぱく質含有量35%以上の輸入枠5000t（生乳換算）を設定	・牛肉はTPPと同様に関税を最終的に9%まで削減。SG発動基準はTPP参加国に修正協議を求める ・豚肉はTPPと同様に最終的に從価税部分は関税撤廃、從量税部分は50円/kgまで削減	・関税撤廃・削減から「除外」 ・輸入枠も設けない ・既存MA枠内の中粒種・加工用限定枠は約束せず

（政府資料を基に作成：日本農業新聞提供）

豚コレラ10月下旬にも予防ワクチン接種

農林水産省は9月27日、豚コレラの感染が確認された岐阜県、愛知県、三重県、福井県、長野県、富山県、石川県、滋賀県、埼玉県の9県が想定されており、各県は、ワクチン接種プログラムを作成し、接種範囲などを決めます。早ければ10月下旬にもワクチン接種が始まる見通しです。

改正案では、「野生イノシシの感染が

継続的で衛生管理の徹底だけでは豚への感染防止が困難と考えられる場合」について、予防的ワクチンを接種できる規定を追加しました。野生イノシシの感染が継続的に確認され、衛生管理の徹底だけでは感染防止が難しい場合など、イノシシから豚への感染リスクが高いエリアを「ワクチン接種推奨地域」と位置づけ、都道府県知事が接種を認めます。生きた豚の移動は、原則として接種地域内に限定されますが、豚コレラ対策で、予防的ワクチン接種を可能にすると、国際獣疫事務局（OIE）が認定する「清浄国」の維持が難しくなります。予防ワクチンを接種する」とにより令和2年9月には「清

浄国」の立場を失います。輸出量は制限され、養豚業への影響が懸念されます。一方「非清浄国」から日本への輸入解禁の圧力が強くなり、ウイルス侵入のリスクも高まる恐れがあります。過去に行われた飼養豚へのワクチン接種は、1996年から段階的に接種を中止しています。2007年からOIEの清浄国となるまで11年かかります。清浄国の再認定は、接種を中止してから1年間発生がないことの確認が必要になります。

①予防的ワクチン接種
野生イノシシで感染が続く地域で都道府県知事が接種を認める。
②野生イノシシ対策
捕獲と検査、生息状況を把握して経口ワクチンの使用を判断する。
③早期発見・早期通報
想定される症状を細かく記載して、似た症状のアフリカ豚コレラも対応。
④食品残さを通じた感染防止
肉を含む可能性がある残さは十分加熱。キャンドル場などに肉を捨てない。

主要農作物種子法の廃止と熊本県の取り組みについて

【種子法廃止の理由】

主要農作物種子法（種子法）は、昭和27年に戦後の食糧増産という国家的要請を背景に制定され、都道府県に対し優良な種子の生産・普及を義務付けました。都道府県はこれを受け、自ら普及すべき優良品種（奨励品種）を決め、種子のもととなる原原種や原種の生産、採種農家が種子を生産する圃場の指定、品質確保のための各種審査等を行ってきました。

制定から60年以上経過し、種子の品質が安定したことにより義務付けまでは必要なくなったこと、また都道府県中心の制度であつたため、民間事業者の品種開発の意欲を阻害している等の理由から、国は種子法廃止を決定しました。

【国の取り組み】

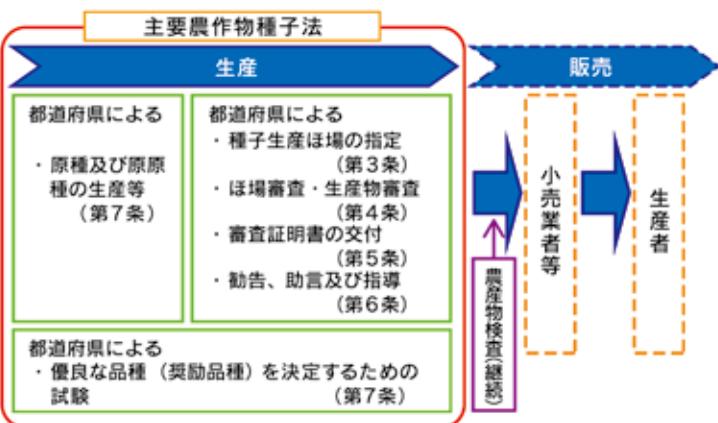
品質が良く、適正価格の種子を安定的に生産・供給していくためには、現状の都道府県の関わりは必須で、国も引き続き都道府県の役割を位置付けるとともに、国の予算措置として地方交付税措置も継続する方針です。一方、種子法で確保してきた種子の品質につ

いては、今後は種苗法と農産物検査法により同じ水準を確保することとしています。

【県の取り組み】

熊本県では、現在、22品種（稻14品種、麦6品種、大豆2品種）を奨励品種（認定品種含む）とし、県農業研究センターで各品種の原原種等を生産しています。

また、県主要農作物改良協会の指導の下、本年産は約8haの原種ほ、約450haの採種ほが設置され、種子生産農家の高度な栽培技術と、厳重な審査により品質が確保されています。

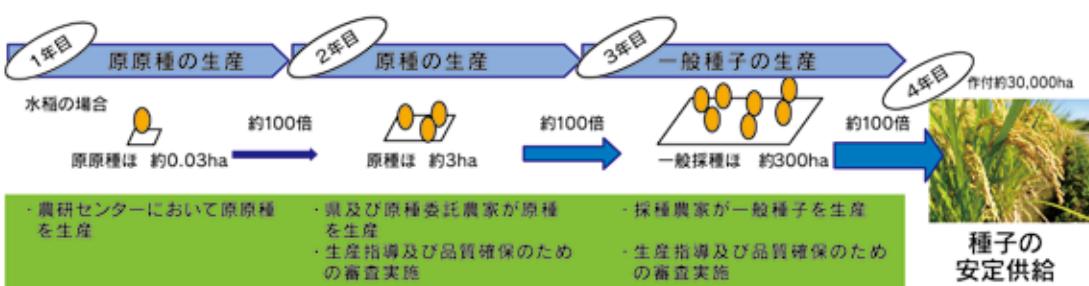


【条例化に向けた対応】

しかし、県内生産者から種子生産に関する不安感の声が上がったため、JAグループ熊本と熊本県農業者政治連盟は8月30日、主要農作物種子法廃止にかかる熊本県種子生産に関する要請を行ふとともに、9月10日に県議会へ請願書を提出しました。これを受け

県議会は9月30日、条例の制定を求める請願を採択しました。種子に関する条例は、蒲島郁夫知事も県議会で制定する方針を明らかにしています。県は12月議会に条例案を上程する方針です。

【本県での種子生産工程(イメージ)】



永田町でも百姓宣言

「政策立案の場に身を置いて」
【農林水産大臣政務官に就任】

令和元年9月11日に発足した第4次安倍第2次改造内閣において農林水産大臣政務官に就任いたしました。政務官の辞令交付式は13日、総理官邸で行われました。

江藤拓農林水産大臣の下、伊東良孝副大臣、加藤寛治副大臣、河野義博政務官と協力して、農業者のための農業政策の実現に向けて全力で取り組んで参ります。農林水産行政の政策立案の場に身を置き、より一層、農家の声を国政に反映させていきます。

19歳で就農して以来、一貫して生産現場で農業と向き合ってきました。こうした農業経験を持つ国会議員は他にいません。農業をしていたからこそ分かること。そうした現場感を政策立案に反映したいと決意を新たにしています。農家の声を国政に届ける。私の使命はご支援をいただいた皆様と共にあります。

これからも現場に足を運びながら、生懸命努力をする農家の方々と共に、よりよい農業環境を作つていただきたいと考えています。

これからも現場に軸足を置き、農林水産行政に新しい風を吹き込んでいくたると思っています。



▲各省の大蔵政務官らと

農政問題に取り込む

「豚コレラ対策など、課題は山積です」
【一番の課題は豚コレラ対策です】

大雨や台風等による自然災害、日本貿易協定など、課題は山積していますが、一番の課題は、発生後1年経つ豚コレラ問題です。イノシシ対策や、豚舎の防疫対策にもかかわらず、豚コレラの拡散が続いています。とうとう養豚の多い関東にも及び、このままでは、大変な事態になります。党の少人数農林幹部会合（インナー会合）を連日開催し、どう判断するかを詰めました。

【相次ぐ自然災害、家畜伝染病対策に全力】
豪雨や台風災害が相次いで発生しています。被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。私も政務官就任後、茨城県と千葉県の現地を視察し、深刻な農業被害の状況を目の当たりにしました。特に、停電の長期化による二次被害も深刻化しています。災害復旧対策と合わせて災害に備える体制の整備に取り組んでまいります。

ワクチン接種を決断

全体として、ワクチン接種には慎重論が多いのですが、問題は、ワクチン損取後の豚肉の販売価格についての心配です。

【加えて深刻なのは豚コレラの感染拡大です。連日のように豚コレラ防疫対策本部が開かれ、議論が重ねられています。今後、ワクチン接種が可能となるよう防疫指針の改定作業を進めていくことが決まりました。加えて農場への防護柵等の設置、飼養衛生管理の徹底も不可欠です。

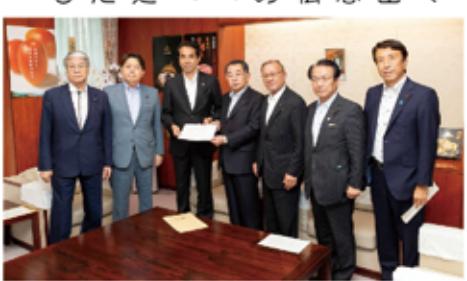
連日のように生産者から要請を受けしており、現場感を持って早急に収束に向けて政府一丸となり取り組みます。

価格低下に伴う補償はどんな形でなされるのか、それは準備されていると聞きますが、どういう補填水準になるのか。マルキン等の価格補填は当然対象にならなければなりませんが、共済支払い等はどんな形になるのか整理しなければなりません。

また、ワクチン接種に際しては、都道府県知事の権限になつてているので、防疫指針の見直しを行い、知事によるワクチン接種の命令と、ワクチン使用の許可を発することが必要になる。どうから、どんな形で接種するのか、拒否する農業者の対応はどうするのか、それら手順や対策が求められる。また、販売店等に、きちんと表示を求めるのかどうか、どういう価格設定を行つて販売するのか等々についても、国による指導が求められる。

これらを詰めた上で流通・販売対策が講じられなければならない。流通・販売サイドにも、誠実な対応が求められます。

今後、様々な問題が出てくると思いますが、私もインナーの一員として、共に考え、しっかりと対処していくことを誓っています。



▲豚コレラ対策の充実に関する大臣要請

JJA熊本うき青壮年部活動報告

JJA熊本うき青壮年部は、松橋・下北・小川・下東・宇土・三角・不知火の7支部で構成され、盟友数272名で活動しています。宇城地域管内は、熊本県のほぼ中央に位置しており、中山間地から平坦地、海岸島しょからなる地形の特色を生かし、米や麦、施設園芸、果樹を中心に多種多様な農産物を栽培しています。青壮年部活動については、地域農業の活性化と稼げる農業の実現を目指し、積極的な活動を行っています。

JJA熊本うきリーダー研修会



▲熊本県大会へ出場する松橋支部の浦野誠氏

フレッシュユミズとの交流会

宇城地域の若手農業者の輪を広げ、地域農業を盛り上げようと、女性部フレッシュユミズ部会と交流会を行っています。ボウリング大会や懇親会などで交流を深め、今後は、JJA役職員と合同での意見交換会開催を計画しています。



▲熱戦のボーリング大会

食農教育活動

子どもたち自ら農作業を体験することで、農作物を育てる難しさや収穫する喜びを感じてもらい、食に感謝するとともに農業の大切さや素晴らしさを知つてもらおうと、各支部において管内の小学生を対象に田植え・稻刈りなど農業体験学習を行っています。

青壮年部盟友が指導し、子どもたちの素朴な疑問にも丁寧に回答しています。



▲子どもたちに「種まき」の説明をする盟友

青壮年部加入促進「一聲」運動

▶盟友指導のもと稻刈りを終えた子どもたち



農業後継者が減少する中で、地域農業やJJA運動の将来を担う青壮年部未加入者を対象として、青壮年部の活動を通じて仲間づくりや自らの農業技術、経営に対する情報交換等、地域の若手農業後継者に青壮年部の魅力を周知し、加入促進を図ることを目的に「青壮年部加入促進「一聲」運動」を実施しています。宇城地域で加入を希望される方は、JJA熊本うき営農指導部までお問い合わせください。

JA中央会

中央会が外国人材の登録機関に「選果場の雇用支援を」

JA熊本中央会は8月30日、特定技能外国人材（農業分野）の「登録支援機関」認定に係る記者会見を行いました。今後は中央会が、特定技能の資格を持つ外国人雇用を希望するJAや組合員の申請・手続きを代行できます。

9月末までに3人を受け入れ、初年度は母国に戻った外国人技能実習生や、在留している実習生を対象に25人を迎える予定です。各JA選果場で、5年内に100～130人程度の受け入れを目指します。生産現場からの人手不足解消を望む声に応え、県やJAと連携して実現しました。JA中央会が登録されるのは全国初となります。

「特定技能」の資格を持つ外国人は、最長5年間の在留が可能で、人手不足解消が期待されます。中央会が同機関として仲介することで、外国人は農閑期に別の作業がある他J



▶中央会の宮本会長(右)と熊本県の福島部長
JA熊本中央会 特定技能外国人 登録支援機関
熊本県農業協同組合中央会



▲記者会見を行う宮本会長(右)

Aで働くなど、通年で働けるメリットがあります。

2018年の県の調査では、農業現場やJA選果場で約1000人の労働力が不足しているとの結果が出ました。特に選果場は深刻で、各JAは他部署の職員も動員して作業しているのが実態となっています。

JA共済連 令和元年度全国小・中学生書道・交通安全ポスター「シンクール熊本県大会入賞者決定!!

☆今年もすばらしい作品が多く寄せられました☆

令和元年度全国小・中学生書道・交通安全ポスター「シンクール

熊本県知事賞【半紙の部】

熊本県知事賞【半紙の部】

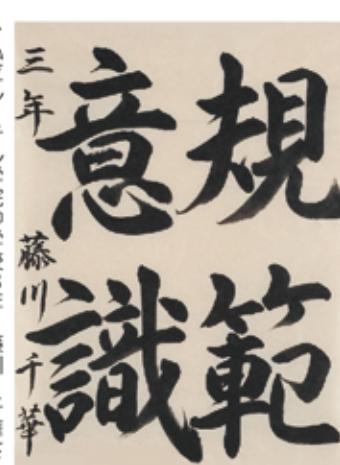
ルは、今年で書道の部が63回目、交通安全ポスターの部が48回目を迎え、熊本県下の小・中学生のみなさんから、書道の部で3万660点、ポスターの部で2376点のすばらしい力作が寄せられました。

9月26日に行われた審査会において、左記の3名が見事最高位の熊本県知事賞に輝きました。熊本県大会入賞者については、「JA共済くまもと」のホームページに掲載しています。

入賞作品の中から、金賞作品27点は11月に行われる全国大会に出品します。熊本県の作品が全国大会においても入賞されるよう願っています。そして、来年も素敵な作品をお待ちしております。



▶玉名市立豊水小学校3年 福田 脩子さん
熊本県知事賞【交通安全ポスターの部】



▶私立ルート学院中学校3年 藤川 千華さん
熊本県知事賞【交通安全ポスターの部】

六 年 本 村 月 渚
豊かな自然

熊本県知事賞【条幅の部】

▶宇城市立豊福小学校6年
本村 月渚さん

第41回JA-SSSドライブウェイサービスコンテスト熊本県大会



▲フルSS部門最優秀賞の森さん



▲セルフSS部門最優秀賞の中村さん



▲出場した選手のみなさん

熊本県JA-SSS本部研究会は9月19日、第41回JA-SSSドライブウェイサービスコンテスト熊本県大会を益城町のグラシーメッセ熊本で開催しました。この大会は、JA-SSSスタッフの接客・点検・技術サービス等の向上を図るとともに各SSS店舗の経営の強化に繋げることを目的としています。個人の部・フルSSS部門で森大作さん（JAたまな）、セルフSS部門で中村優希さん（JA菊池）、団体の部で菊池地区実行部会が激戦を勝ち抜き、最優秀賞に輝きました。

フルSS部門とセルフSSS部門で各地区より出場した14人が、制限時間内で接客・推進・技術サービスを競いました。お客様とのコミュニケーションも重視し、車の状態に応じた洗車やオイル・タイヤ交換の提案、推進にも着目して審査しました。また、身だしなみや態度、表情につ

いても審査対象となりお客様へ不快感を与えない接客を心掛けました。審査講評を行った西山恵一農機燃料部長は、「競技内容を今後の業務に活かしていくことがこの大会の大きな意義。お客様の信頼と満足を得ることで、さらなるJA-SSSのグレードアップが図られ、同業他社にも打ち勝つことができる。」と話しました。

上位入賞者は次の通り。

●個人の部・フルSSS部門

△最優秀賞

森大作（JAたまな・山北SSS）
上村聰彦（JA菊池・パシオンSSS）

●個人の部・セルフSSS部門

△最優秀賞
中村優希（JA菊池・菊陽SSS）
△優秀賞
渡邊遙香（JAたまな・天水SSS）

△最優秀賞 团体の部

△最優秀賞
＝菊池地区実行部会



▲試食を振る舞うキッズ野菜ソムリエ



▲大盛り上がりのbingo大会



▶県産野菜を対面販売する生産者

8月31日は『野菜の日』人気イベントで県産野菜をPR!

J.Aグループ熊本と熊本県青果物消費拡大協議会、(一社)熊本県野菜振興協会は8月31日に合同で熊本市の「びぶれす広場」にて夏秋野菜の消費宣伝会を開催しました。

8月31日は「8(や)3(ぞ)1(い)」の語呂合わせから「野菜の日」とされており、熊本県産野菜のPR・消費拡大と「1日野菜350g摂取運動」の推進を目的としています。

J.A熊本経済連の松下隆裕専務は「生産者が丹精込めて作ったおいしい熊本の野菜を食べて健康になつてもらうことがJ.Aグループの願い。新鮮な野菜をたくさん買って、食べて、熊本の野菜の日を盛り上げてほしい」と力強くあいさつしました。

生産者とJA職員らがトマトやナス、アスパラガスなど13品目を100円均一販売し、開始前から買い物客の長い列ができました。熊本市内から来場した親子は、「新鮮な熊本の野菜をたくさん買うことができて嬉しい。今夜は、野菜をふんだんに使った料理を作りました」と話しました。

また、野菜ソムリエとキッズ野菜ソムリエが、ナスやトマトなどの野菜を使ったお手軽料理の試食を振る舞いました。野菜クイズや数字の代わりに野菜と果物の名前を使ったbingo大会などもあり、会場は多くの家族連れなど幅広い年齢層の来場者で賑わいました。



くらしの保障、相談するなら



19481050122

JA-SS 熊本県下一音

大感謝祭 プレゼントキャンペーン

10/31木 11/1金 2日間限り!!

さらに 11/29水 2回目ご来店で 選べるプレゼント

JA-SSへぜひご来店ください!

よかちるばい!!

2019 たのしい!おいしい!ワクワクの2日間!

くまもと農業フェア

11月9日・10日 入場無料 熊本県農業公園「カントリーパーク」
9:30~16:00 (開園時間 9:00~17:00 合志市栗3802-4)

ステージイベント

9日 土	10日 日	9日 土 10日 日 両日開催!!
9:30 くまモン体操	10:00 バレーンアートショー①	J.A女性部 地産地消鍋
10:00 オープニング/くまモン隊/紅白もち投げ	11:00 女性限定!米俵かつぎ大会①	県青壮年部 餅つき実演販売!
11:00 災害救助犬デモンストレーション①	12:00 バレーンアートショー②	親子でいも堀体験
11:30 キャラクターショー①(ドラえもん)	13:00 Agri de キッチントーク&ライブ	農業高校学科体験
12:30 ストリートダンスショー	14:30 女性限定!米俵かつぎ大会②	bingo大会
13:30 災害救助犬デモンストレーション②	15:00 熊本の農産物が当たるbingo大会	くまモンふわふわブレイランド
14:00 キャラクターショー②(ドラえもん)	※スケジュールは変更になる場合があります。 ※イラストはイメージです。	
15:00 熊本の農産物が当たるbingo大会	県内各地の農畜産物がご購入頂けます。	

● 聖友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真などをお寄せ下さい。

連絡先 熊本県農業者政治連盟
(電話) 0961-328-11284 JA 熊本県会館10階
FAX) 0961-326-15807

秋から冬にかけて旬の大根には、でんぶんの消化酵素であるジアスター酶が含まれており、食物の消化を助け、腸の働きを整えるほか、焼き魚の焦げた部分に含まれる発ガソニア質の解消など、解毒作用もあります。大根の栄養素として豊富なのはビタミンCです。根の中心部より皮が約2倍も多く、更に葉には根よりも多く含まれています。また、葉には根には含まれていないビタミンA、ビタミンB1・B2、カルシウム、リン、鉄などといった栄養も豊富です。

第7回「がんばろう熊本 未来に伝えたい農業・農村の風景」フォトコンテストで、入選された方の作品の中の一点です。

「大きすぎて抜けない 大根サン」



撮影者 米満 敦史様(熊本市東区)

が
あ
き
と

